模擬授業で体験的に性教育の進め方を学ぶ

東京都特別支援教育性教育研究会
会長　朝日　滋也
（都立墨田特別支援学校校長）

1. 活動の再開

今年度から、全国性教育研究団体連絡協議会に加盟させていただきました東京都特別支援教育性教育研究会です。よろしくお願いします。

東京都において、特別支援教育に関わる性教育の研究会はここ数年休止状態にありました。しかし、令和４年８月に、第 50 回記念全国性教育研究大会が東京で開催され、そこに関わった数名の特別支援学校や特別支援学級の教職員に対して、もう一度、研究会活動を再開してみないかと、全性連や東京都性教育研究会（都性研）の皆様に背中を押される形で、令和５年から活動を再開いたしました。

１年目は、先進事例に学ぶことから始め、日本障害児性教育研究会の山本良典先生（東京都心身障害者福祉センター）、蓮香美園先生（東京学芸大学附属特別支援学校）を助言者として迎え、障害のある子供たちが、社会に出たときに「ステキな大人になれるように」という視点から学ぶこととしました。特別支援学校等における性教育の進め方を学びたいという熱心な教職員が徐々に集まるようになり、会員は 31 名となり、年度末の研究成果報告会には 68 名の参加者に集まっていただきました。

2. 授業づくりを目指して

２年目となる今年度は、学校における授業づくりを具体的に学ぶこととし、５月 11 日に開催した第１回目の研究協議会では、蓮香美園先生から「性教育の授業づくり」の講話を伺った後で、参加者による模擬授業を体験しました。

今回の授業は次のような内容です。

テーマ：「大切な心と体をまもるために」
題材名：「変な人についていかない」
ねらい：知的障害のある生徒が自己防衛スキルを身に付けられるようにする。
展開：①「変な人」について話し合う。
②「大声で『いや』という」「逃げる」「報告する」の３つのスキルを、ロールプレイをしながら学ぶ。

取り上げた題材は、文部科学省の「生命の安全教育」とのつながりもあり取り上げやすい題材です。性教育の授業実践で「障壁」と言われる「保護者、教員間とのコンセンサス」も得られやすく、教育課程にも位置付けやすいです。

「いや」という・逃げる・報告をするというシンプルな活動ですが、学校での実際の授業では、「声も出ず、動けず」「声は出ないが何とか逃げる」「大声で拒否するが逃げない」など様々な反応があるそうです。中には構えすぎてしまって固まったり、どうすべきかは言えるけれど、ロールプレイに参加はしなかったりと、様々な反応があるそうです。

毎年１回、学年があがるたびに繰り返し学習する機会を確保し、一定期間空けて練習することで自己防衛スキルは確実に上がるそうです。家の人に「報告する」ことも、言語表現が十分でなくても何らかのサインで報告できるようにすれば、その生徒のもっているコミュニケーションの力で伝えることが可能になります。

講話のあと、参加者に模擬授業をやってもらいました。進行する教師（ＭＴ）と変な人役のＳＴ１、報告を受ける家族役のＳＴ２、そして様々な実態の生徒役５人です。生徒も声が出せる役から固まってしまう役まで演じてくれました。２組の模擬授業から多くの学びがあり、アンケートでは学校に戻って取り組んでみたいという声も多数ありました。生徒の様々な反応にも、教師役は活動を肯定的に認めて終わらせることが大事だと、気付いた研究会でした。

家族役の ST に、生徒役が報告する場面